京城日報

困難は百も承知 人間爆彈のみ

ペリリュー皇軍は楠戰法

梧州占領第一報

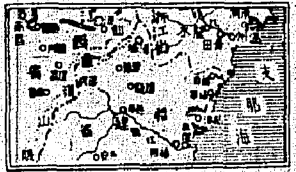
（上）梧州へ堂々入城する我部隊（下）敗敵の放火により炎上する梧州＝九月廿日＝

社説

敵の謀略を超える道

閩江下流 砲台艦砲で撃碎

福州作戰 參加の海軍部隊



貯蓄目標增加額は 新興所得階級 退藏資金へ

交通要員の確保考究

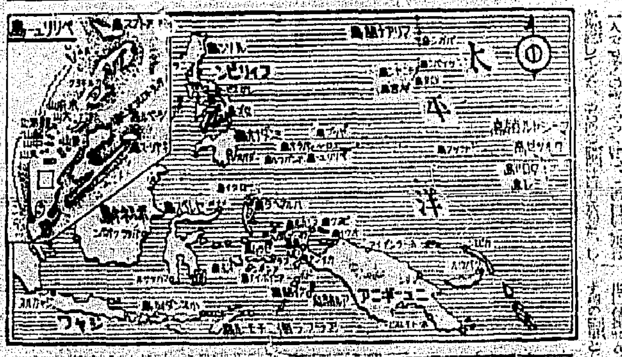
桂林へ七里に進出

廣東地區に爆 米空軍は自暴

梧州附近でP51七機屠る

新港、各工場視察

總督、朔州へ



パラオに敵七十機

中部太平洋

南西太平洋

アンボンに九十機

バボに五十機來襲

敗戰はお互ひ樣

重慶チャーチルに怒る

稀元素鑛物を統制

疎開學童對策協議會設置

西部

獨死守、進出許さず

ジ線攻防、息詰る血闘

カレー陷つ

鐵門兩側激戰

前鉄

ゼノア灣で海戰

東條大將南鮮視察

米聯合艦隊 副司令任命

朝鮮バリウム工業會社設定

構成會員指名

炎肺・實感 ライサミン 白水製藥研究所

文藝春秋 十月號 地方文學の曙光 岸田國士 北地を耕す人 吉田 旅愁 横光利一 油田 中山 劉廣福 八木 芥川賞受賞作 戰國武士の心構へ 高柳光壽

公論 十月號 神州不滅 頭山滿 決意と傳統 宇氣比の戰ひ 勝利への道を論ず 大東亞決戰の構想に立ち 危機に直面する 逆時斷行の財經施策 松岡洋右氏を訪ねて 勝利は國史が保證する 德富蘇峰 鬪ふ日本科學への要請 日本科學の確立

講談倶楽部 十月號 必勝此の一手 最後まで戰ふ者は遂に勝つ 秋山中佐 物語日本史 ますらを談義 兵術放談 炎の如く 閑古鳥 烈婦京

日本 十月一日號 ドイツ戰力の中核 爆風と内臓 輿論明朗化の根本 杉森孝次郎 言論も戰力なり 河野 決戰議會 政府と議會 大和の精神を徹底せしめよ 決戰各國の實状を語る座談會 國家の興亡と人物 高須芳次郎 貯蓄政策の再檢討

勝ち抜く冬の「暖」と「食」 瀬戸知事に聴く

燃料はまづ安心

但し輸送に府民の協力

申込みは班 組單位で

野菜 漬物用確保へ

作付けに學徒動員

鹽 十一月分を繰上げ配給

行過ぎた町會鍊成

缺席者に配給物停止はまづい

息子よ太平洋で會はう

老父は再び海へ・子は大空へ

母獨り健氣に銃後を護る

戰爭と醫療 (2)

外科醫の立場から

何よりも早期治療

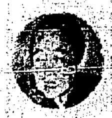
外科手術の優秀をもつと認識

武門の譽れ

輝く二十七 二家庭を表彰

一掃された「白い印象」

木内女史觀察報想 戰ふ半島女性に安心



時計お修理は 村木時計店

小兒科 林野醫院

前線に送らうわしの顏

軍援展に賑ふ似顏繪描き

博士ばかり 醫療挺身隊

賣發を符切で横連

內地旅行者に便宜

東天新生 (33)

山中峯太郎 作 伊勢良夫 畫

建築工作更に强化

靑年創立十周年大會

府民館

京畿道醫師會 四日から新發足

大學專門の武道大會

放送

けふ

日興證券京城支店
公社債株式 投資信託 多少に不拘 御用命を!!

セーキン 水虫、たむし、ひぜん等に かゆい皮膚病に

京日案内

男女工員緊急募集 朝鮮書籍印刷會社

社名變更謹告 昭興鑛業株式會社

仁川支店開設 朝鮮荷造包裝會社

從業員急募 咸興職業紹介所

新株式第四回株金拂込公告 滿洲電信電話株式會社